

## 平成 29 年度 発達障がい児者支援体制整備検討部会及び各WGでの主な意見

項 目	主なご意見など	備 考
(1) 早期気づきと早期発達支援の充実	1 医療と福祉の連携では医療から福祉への「つなぎ」がポイントになっているが、福祉の場面で医療の関わりが必要な場合についても丁寧な対応が必要だ。	第1回部会
	2 医療機関の確保に関して、2次医療圏に1か所程度のコーディネート機能の整備は画期的だ。実現のためには予算の確保も必要だろうから、優先順位を高めて取り組んでほしい。	第1回部会
	3 早期気づきと早期発達支援に関して、医療と福祉の連携にコーディネート機能をつくって連携を強化するとあるのはぜひやって欲しい。体制づくりと合せて、医療の質の担保もテーマになってくると思う。	こども
	4 ガイドブックの作成はありがたい。種々の訓練もあるので、それらも盛り込んだ方がよい。	こども
(2) 発達支援体制の充実	1 放課後等デイサービス（以下「放デイ」）のサービス提供事業者が増えたが、質の担保を図るべき。発達障がいの特性を分かって関わらないと逆効果となってしまう心配もある。	第1回部会
	2 放デイの職員向け研修を実施しているが、事業者数が多く全てに対応できない。研修の仕組みなどを考えていくことが必要だ。	第1回部会
	3 日々支援に携わる中で、早期診断・早期療育の体制確保が進み成果が上がってきていると実感。これは療育拠点の果たした役割が大きいと思っている。今回、さらに療育拠点を活用していくという方向性は重要だ。療育拠点の機能として、放デイ支援を期待している。	第1回部会
	4 放デイの質については、利用者の選択によって高まる側面もあるが、保護者の中には送迎サービスがついているだけでいいと思う人もいる。子どものために何が必要で、何がいいか知らない人も多いのではないかな。	第1回部会
	5 療育拠点について、地域支援マネージャー事業を実施する中で、地域づくりの中心的存在になっていると認識している。	こども
	6 事業所の中には、療育拠点がどういう位置づけかを知らないところも多く拠点のPRが必要だ。	こども
	7 福祉サービスは広がってきていると思うが、これまでの成果を踏まえ、点から面としていくことが必要だ。その際、療育拠点は重要な社会資源だと認識している。	こども
	8 療育拠点でも若手の職員を活かしながら事業に取り組んでいけるようにする必要がある。人材育成が大切だ。	こども
	9 障がい児福祉計画との関連では、市町村の支援のネットワークの中心を児童発達支援センターとして、そこと連携していくような施策も考えていくべきだ。	第2回部会
(3) 教育分野における支援の充実	1 就学時の健診でアセスメントして、必要な支援ができるようになればいいと思う。	第1回部会
	2 支援学校がセンター的機能を発揮するには、かなりの数の人材配置が必要だし、なおかつ良質な人材を確保することも必要だ。	第1回部会
	3 支援学校のセンター的機能については、7つのブロックでその機能を持たせていたと思う。学校によって得意分野も違うだろうから、それぞれの得意分野を活かして支援できる体制が大切だ。	第1回部会
	4 支援に関する情報が引き継がれず、途切れてしまうという課題があるが、大学まで個別の教育支援計画が引き継がれてきた学生は円滑に学生生活を送っているという現状を関係者が認識すべきだ。	第1回部会

	5 高校生活支援カードは、親の会では全員が作成するのは画期的だと評価されている。ここで初めて支援が必要と書いた保護者もいると聞く。有意義だ。それに加え、合理的配慮の観点もさらに加えていただければよいと思う。	こども
	6 中学校で個別の教育支援計画が作成されていると、府立高校の受験に不利だと思っている保護者もいる。丁寧な説明とフォローアップしていただきたい。	こども
	7 個別の教育支援計画をつくる時に、療育でやっていることや、受けた発達テストの結果などが参考になると思う。特に小中ではぜひ参考にして欲しい。支援がうまくつながれば、大学まで行ける例もあるし、問題行動の減少などの効果も期待できる。	こども
	8 教員に対して発達障がい知識の確認のためのアンケート調査が必要ではないか。教員によって差が大きいと感じている。全ての教員に研修必要だ。	こども
	9 学習障がいの子どもは学校で気づかれるべきだ。また、学習面でのサポートは医療では手が届かない。スクールソーシャルワーカーの活用など、学校予算の充実が必要だ。	こども
	10 大学在学中に職業生活に必要なスキルを習得することはいいことだ。大学に入る前から生活習慣がとれるようにサポートしておくということも考えておいた方がいい。中学で不登校が多いので、中学、高校時代から指導してくれる相談機関あればいいと思う。中・高からやるのが大切ではないかと思う。学校だから介入できることもあると思う。	成人
(4) 就労支援の充実	1 発達障がいの診断があり障がい者雇用を希望する、いわばオープンな人の支援はかなり進んでいると思う。一方で、診断があっても、一般就労を希望し、クローズで働きたいというニーズも多い。今後、こうしたニーズにどのようなサポートができるか、次の段階として検討が必要だ。	第1回部会
	2 障がい者枠での就労を嫌がる人もいるというのが実情である。障がいを言わずに就労したいという相談も多くなっていて、そういう人の中には、企業側の配慮が期待できないので、就労継続が難しい人もいる。	成人
	3 以前は精神障害保健福祉手帳を持っているという企業は遠慮がちになっていたが、最近の雇用情勢もあってか、企業のニーズは増えていると実感。企業への支援を充実して欲しい。その際、発達障がいの方の特性を踏まえ、こういう職場だったら働ける、というようなアプローチが必要だ。単純作業だけでなく、企業側もいい受け入れ手法を示せば、働きやすいし、その人の能力を発揮できる。	成人
	4 企業等への支援の視点に「定着」が含まれているので、本人への支援にもその視点を追加すべきだ。「働きたい人への支援」ではなく「働きたい・働き続けたい人への支援」という表現の方がいい。	第2回部会
(5) 地域生活支援と相談支援体制の充実	1 地域での見守りを担う人材として、民生・児童委員を想定されているとのことだが、支援者名簿に掲載され、見守り対象としたにもかかわらず、対応が不適切でうまく行かなかった事例もあると聞く。発達障がいの特性の理解と合せて、障がい者支援の基本的なところの理解を促すことも必要だ。	第1回部会
	2 個別の支援計画に関して、学齢期には個別の教育支援計画があるが、大人になった時、福祉サービスを利用しなければ、支援のための計画がない。サービス利用計画とは別に、ライフステージを一貫した福祉の分野での個別の支援計画をきっちり作っていくことが必要ではないか。	成人
	3 強度行動障がいのことも位置づけ。療育にしても医療にしても拠点という議論があるが、強行支援においても社会的資源として支援のノウハウのある府立施設の役割を考えていただければと思う。	第2回部会

	4 「発達障がい者地域支援マネージャー」はどこに配置されているのかわからない。配置場所であるアクトおおさかを明記した方がよいと思う。	第2回部会
(6) 専門的な医療機関の 確保等	1 これまでの研修の成果で、発達障がいに関する知識のある医師・医療機関は増えてきたが、点が面になっていないことが課題だ。	第1回部会
	2 医療機関の公表は、診断できるということに加え、診断後にどのようなフォローが受けられるか、その内容も含めて公表できないか。	第1回部会
(7) 家族支援の充実	1 ペアレントメンター（以下「メンター」）について、活躍の場を広げるとの位置づけはありがたい。この方向で進んで欲しい。トレーニングを受けたメンターがしっかりと活動していくことが大事だ。	第1回部会
	2 ペアトレについて、放デイや親子教室でできればいいと思う。検討して欲しい。	こども
	3 不登校など思春期の頃に出てくる問題もある。ペアトレの対象年齢の拡大や、拠点での対応なども検討して欲しい。	こども
	4 メンターは、現在は幼児から小学校くらいまでを対象にしていたと思うが、大人のメンターとなると難しいことも多い。早期の支援ということで守備範囲を明確にしておくべきだ。また、メンターに負担がかかる懸念も。コーディネーターがしっかりとメンターを守る仕組みを作った上で活動して欲しい。守備範囲の明確化とメンターへの支援という枠組みの中で拡充していくべきだ。	成人
(8) ライフステージを通 じた一貫した支援の ための取組	1 18歳を境に子ども家庭センターから市町村に担当が変わる。支援の引き継ぎ状況など、府として市町村の対応を把握しておくことが必要だ。	第1回部会
	2 放デイも大事だが、成人の生活介護の充実も必要だと感じている。行動障がいの人が1つの事業所に1人はいるような状況だが、アセスメントしてプログラムを作り、適切な支援を受けられれば、改善される人もたくさんいる。成人の発達障がい、行動障がいの人への支援の充実も位置づける必要がある。	第1回部会
	3 2才～6才までの早期療育に関して、市町村の親子教室と連携する動きも出てきていて、療育を受ける前からの市町村とのつながりが始まっている一方で、幼稚園や保育園から小学校に行くと引継が十分でないこともある。	こども
	4 発達障がいの支援は就学前、学校とライフステージが進み所属する機関が変わる時に途切れがちだ。	こども
(9) 発達障がい理解のた めの取組	1 地域に出かけていくような啓発活動も必要ではないか。	こども